

# 基礎調査報告（リニア・インパクトの分析）

## ■ 目的

平成 39（2027）年に予定されているリニア中央新幹線の開業が、社会・経済に及ぼす影響等（「リニア・インパクト」）について、名古屋駅から至近の清須市における正負両面の影響を的確に捕捉し、清須市が目指す将来像へ取り込んでいくため、リニア・インパクトに係る現状把握や、効果と影響の整理等を行います。

## ■ 整理項目

- 1 リニア中央新幹線を巡る状況
- 2 地域で期待される効果と影響（リニア・インパクト）
- 3 清須市で想定されるリニア・インパクト等

## 1 リニア中央新幹線を巡る状況

### (1) リニア中央新幹線整備事業の概要

整備計画では、リニア中央新幹線の東京－名古屋間開業は 12 年後（2027 年）、全線営業は 30 年後（2045 年）となっており、主要な経過地は、甲府市附近、赤石山脈（南アルプス）中南部、名古屋市附近、奈良市附近とされています。また、リニア中央新幹線建設促進期成同盟会の試算では、東京－大阪間の所要時間は航空機並みである一方、航空機に比べて大量の輸送能力を持つことから、優れた輸送機関であるとされています。



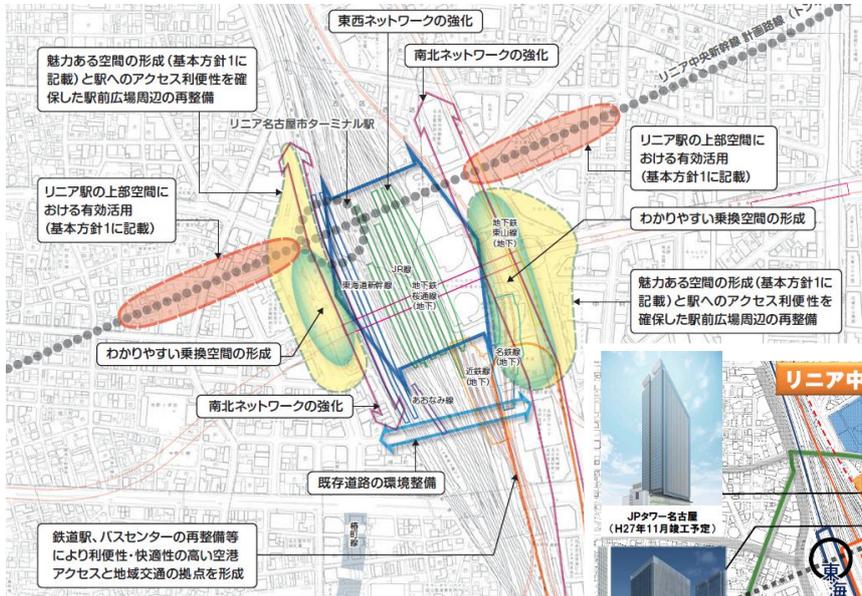
建設線	中央新幹線
区間	東京都・大阪市
走行方式	超電導磁気浮上方式
最高設計速度	505キロメートル/時
建設に要する費用の概算額(車両費を含む)	90,300億円
その他必要な事項	主要な経過地 甲府市附近、赤石山脈(南アルプス)中南部、名古屋市附近、奈良市附近

出典：国土交通省「中央新幹線の整備計画の決定について（平成 23 年 5 月 26 日）」、JR東海「中央新幹線（東京都・名古屋市内間）計画段階環境配慮書」等をもとに作成

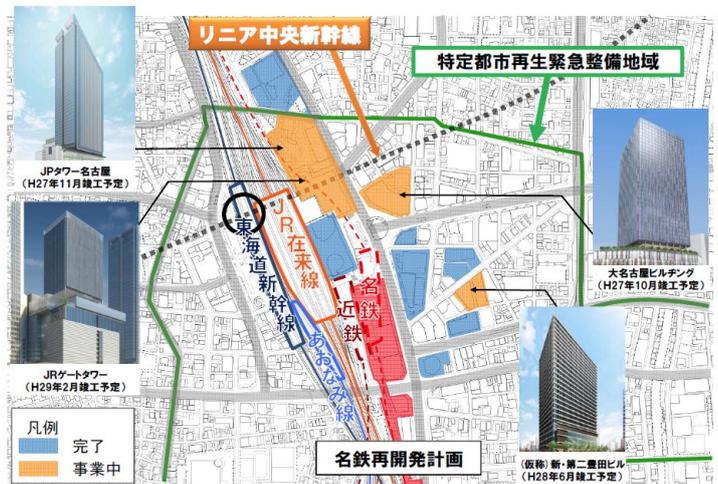
### (2) 名古屋駅周辺まちづくり等、関連開発プロジェクトの動向

名古屋市は、平成 26 年 9 月に「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定しました。同構想では、リニア中央新幹線開業を見据えて、目標となるまちの姿を「世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ」とし、その実現のための具体的な取組み等を明らかにしています。現在は、同構想を推進するための懇談会を設置し、意見交換並びに協議を行っています。

また、次のとおり、名古屋駅周辺ではリニア関連プロジェクトに留まらず、既に様々な民間主体による、エリアの成長性に着目したまちづくりプロジェクトが展開されていることが示されています。



出典：名古屋市「名古屋駅周辺まちづくり構想」

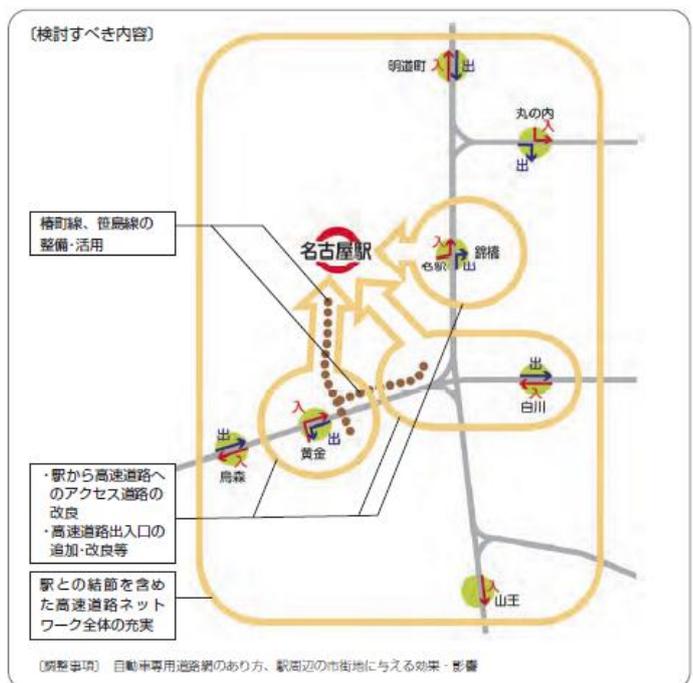


出典：名古屋市「リニア中央新幹線と名古屋駅周辺まちづくり構想」

### (3) 名古屋駅と都市高速道路とのアクセス性の向上

名古屋市の「名古屋駅周辺まちづくり構想」では、取組みの一環としてリニアに合わせて広域道路ネットワークへのアクセス性改善を推進する「駅と都市高速道路とのアクセス性の向上」の必要性が示されています。

その結果、リニアの速達性を活かし、充実した高速道路ネットワークの最大限の活用と、通過交通の迂回・分散を図ることとしています。

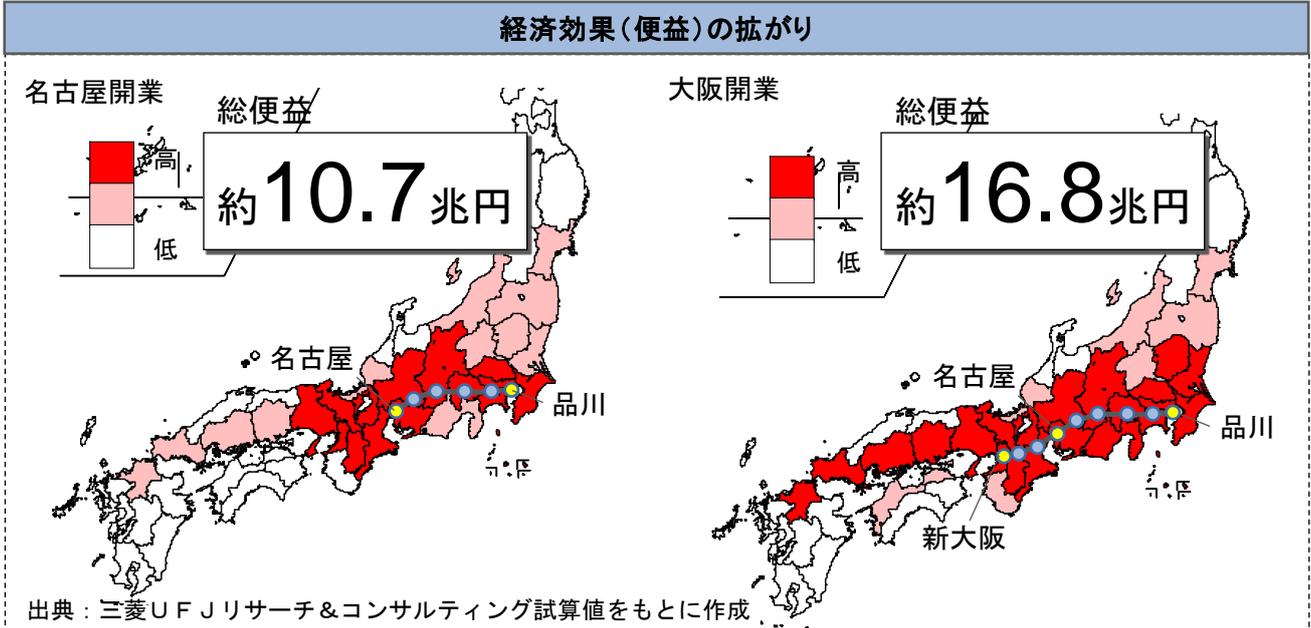


出典：名古屋市「名古屋駅周辺まちづくり構想」

## 2 地域で期待される効果と影響（リニア・インパクト）

### (1) リニア中央新幹線の整備効果（経済効果）の概要

次のとおり、リニア中央新幹線の整備に伴う経済効果（開業後50年間の合計）は、名古屋開業で約10.7兆円、大阪開業で約16.8兆円と見込まれています。



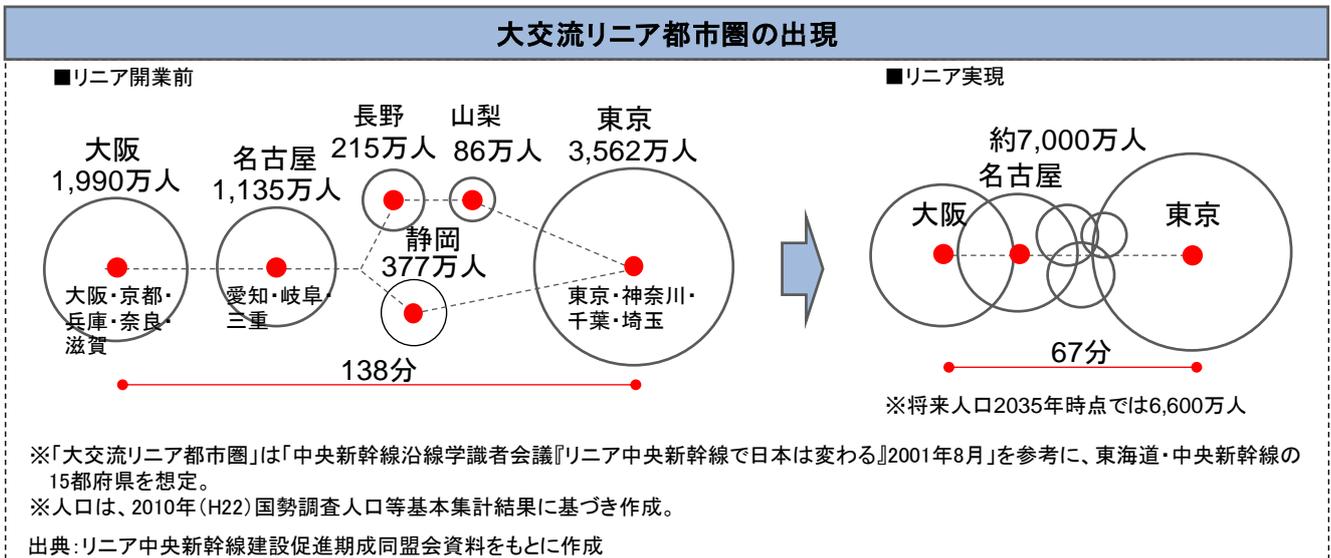
### (2) 名古屋都市圏に与えるインパクト

愛知県の「リニア中央新幹線影響等調査」では、リニア中央新幹線の整備により、東京一名古屋間の所要時間は40分となり、首都圏近郊の千葉市、高崎市、宇都宮市等と同程度の所要時間で、東京から名古屋を訪れることが可能になると示されています。

また、時間短縮により生活面での利便性が大きく向上するほか、産業面でも、名古屋から2時間圏の事業所数が拡大するなど、地域のポテンシャル向上が見込まれています。

特に、地域が強みを持つ産業分野の活性化が見込まれ、モノづくり産業の競争力強化等が期待できるとされています。

一方で、他の都市圏が優位な分野では、地域外への流出というストロー効果も懸念されています。





#### (4) リニア・インパクトを活かすための地域の検討課題と方向性

愛知県の「リニア中央新幹線影響等調査業務報告書」では、愛知県の今後の地域づくりにおける検討課題を、次のとおり示しています。

また、愛知県の「リニア中央新幹線対応検討調査報告書」では、県内各地域の現況・特性について整理するとともに、リニア時代の状況変化の見通しを踏まえ、リニア・インパクトを生かした各地域の発展の方向性について整理しており、清須市を含む西尾張地域については、次のとおりとされています。

##### 【愛知県の今後の地域づくりにおける検討課題】

- 1) リニアによる時間短縮効果の広域的波及
  - 名古屋駅の機能強化と周辺都市との交通ネットワークの強化
  - 東海道新幹線の利便性向上と積極活用
  - 岐阜県・長野県のリニア中間駅とのアクセス利便性の確保
- 2) 高次都市機能の強化と競争力のある産業の育成・振興
  - 高次都市機能の集積・強化
  - 次世代のモノづくり拠点の形成
  - 外資系企業の誘致
  - コンベンション機能の強化
- 3) 国土構造面での立地優位性の積極的活用
  - 国内に唯一の機能誘致
  - バックアップ機能の立地促進
- 4) 観光戦略の展開
  - 県内の観光資源の発掘・磨き上げと広域連携によるルート開発
  - インバウンド観光の推進
  - 名古屋駅を起点とした都心観光の強化
  - 東海道新幹線の県内駅や他県のリニア中間駅の活用
  - 県内へのMICEの誘致推進
- 5) 国際交流を支える空港・港湾機能の強化
  - 中部国際空港の機能強化
  - 二つの空港を活用した利便性の高い空港機能の提供
  - 中部国際空港アクセス利便性の強化
  - 名古屋港をはじめとする港湾機能の強化
- 6) 新たな居住・定住を促す魅力的な居住環境の提供
  - 教育・文化、医療・福祉等の居住環境の向上
  - にぎわい機能・リゾート機能の強化

出典：愛知県「リニア中央新幹線影響等調査業務報告書」

また、愛知県の「リニアを見据えた鉄道ネットワークの充実・強化に関する方策案」では、「本県の強みであるモノづくりをはじめとする生産機能の集積地にリニア開業による時間短縮効果を最大限波及させることが本県の経済活力を高めるのみならず、我が国の国際競争力を高めるためにも極めて重要である。また、世界との直結性を高めるため、リニア名古屋駅と国際拠点空港である中部国際空港とのアクセス利便性を確保することが必要」との認識が示され、下記の方策案が示されています。

- (1) 名古屋駅の乗換利便性の向上
- (2) 名古屋駅と豊田市間の速達化
- (3) 中部国際空港アクセスの向上
- (4) 東海道新幹線駅の利活用の促進

出典：愛知県「リニアを見据えた鉄道ネットワークの充実・強化に関する方策案」

##### 【地域づくりの方向性（西尾張地域）】

『名古屋近郊の立地を生かした産業・物流機能と居住機能の集積を先導する地域』

###### 【産業】

・名古屋駅周辺地区とあまり変わらない首都圏との時間距離と、不動産価格等コスト面での優位性を生かし、創業期の企業のオフィス需要に応じていくことや、名二環南西部など道路整備の進展に合わせた物流拠点や航空宇宙産業など企業等の立地集積を図っていく。

###### 【居住環境】

・名古屋市内より好条件の居住地として、首都圏からの移住者増加も見据えた積極的な受入誘致の取組について検討を進めていく。

###### 【観光・交流】

・名古屋駅から短時間で行ける距離に、戦国武将ゆかりの地や水辺空間等の磨けば光る魅力的な観光資源があることを生かし、名古屋駅でのリニア乗換旅客や県外から来訪するビジネス客等をターゲットとしたショートトリップ観光を促進していく。

出典：愛知県「リニア中央新幹線対応検討調査報告書」